

18歳選挙そして地域貢献 7/4

今度の7/10は、参議院選挙（選挙区と比例区選挙制度等について説明）と鹿児島県知事選挙です。公職選挙法が70年ぶりに改正されて、選挙権が18歳に引き下げられました。若い世代の意見をもっと政治に取り入れて欲しいと思いませんか。60歳代の投票率は約68%、20歳代は約33%です。これでは政治家の方々は、若い世代に対する施策が二の次になっても仕方ありません。18歳選挙の最初の選挙です。これからの国政と県政を左右する大事な選挙です。大口高校生の17人に選挙権があります。是非、棄権をせず投票所に足を運んでください。



第1回地域活性化プロジェクト企画会議 7/8

もう一つ、今週の金曜日（7/8）に「地域活性化プロジェクト」の第一回の学習会があります。日本大学助教の永村景子先生と2人の大学生が、大口高校に来てくれます。遠く東京からですが、この縁は、曾木滝分水路をデザインした熊本大学院の景観デザイン研究室の方々との、「大口高校×大学チームによる地域活性化プロジェクト」を立ち上げたことに始まります。このプロジェクトで、26年度は「さいなら曾木はっけんウォーキング」（H26.10.5）。27年度は、曾木の滝公園での「もみじ祭」を伊佐市観光特産協会と連携して、大口高校生がプロデュースしました。地域のことについて「学び」、何ができるかを「考え」、それを「楽しい」記憶として残るように活動することで、地域への愛着と誇りを育むことができます。昨年度の様々な地域貢献活動を積極的に参加し企画したのが、今の3年生です。そうした活動をとおして、多くの大人と交わり、さまざまな経験をしたことと思います。様々のイベントをどう創っていくのか、アイデアを出し、意見をまとめあげていく。そうした経験をとおして、上級学校で専門性を身につけて、有為な人材として地域に貢献したいと考えている人も多くいます。大学も地域貢献活動をしてきた意欲的で主体的な人材を求めています。今年度は、2年生が中心になって1年生と一緒に、「大口高校×大学チームによる地域活性化プロジェクト」を成功させてください。金曜日にたくさんの生徒の参加を期待します。

「たのしみ」 1学年 池田真里先生

私の好きなことは楽器を吹くこと、吹奏楽です。中学校・高校・大学と続け、今でも楽器を吹いています。特に、高校時代の部活の仲間とは今でも連絡を取ったり、年賀状のやり取りをしています。中学校は土日も一日中練習の日も多く、大変だったのですが、高校は練習半分・おしゃべり半分といった気楽な感じでした。大学は平日17～21時、土曜日・日曜日は午後から練習で休みの日は数えるほどしかありませんでした。練習は厳しく、特にコンクールの練習となると厳



先生の話真剣に聞く1年生

しさを増し、合奏中に追い出されたこともありました。そこまで突き詰めて練習したことによって、思い描いていた音楽や心地の良い音楽が演奏できた喜びは大きいものでした。この時の快感を忘れることはできません。今でも吹奏楽を続けているのはこの時の喜びをもう一度味わいたいからかもしれません。

何事も思い描いた様に事を運ぶためには、しっかりとした準備や厳しい練習が必要です。できたときの喜びは準備や練習が困難だった時ほど大きいものです。本当に楽しいと思えるのはこの時だと私は思います。だからこそ、高校時代に何か熱中できるものを持ってください。部活でもボランティアでも地域の活動でも何でもいいです。それに打ち込むことで思い描いた事を実行する力を養えると思います。

「着こなして憧れられる学校に」 2学年 龍本創矢先生

先週の月曜日（6/24）に、今年度に入り3回目の服装容儀検査が終わりました。皆さんは初回合格できましたでしょうか？本日は服装容儀検査ということも含めて制服の着こなしについて話をします。

君たちは服装容儀検査のために今日だけ特別にしっかりと服装を着こなしていますか？今見れば、中に色シャツを着ておらず、ベルトをしっかりと締め、ボタンもしっかりと止まっています。しかし、普段はどうですか？『この方が格好いいから』、『これぐらいならいいや』という気持ちで服装が緩んでいないでしょうか？学校の中でなら、注意をされておしまいますが、では、学校の門から出た後に、だらしのない服装を見た人たちはどう思うのでしょうか。小学生や中学生は、その姿に憧れるでしょうか。着こなし一つで、学校のイメージも変わります。進学や就職にも、学校として有利にも不利にもなります。卒業してからも、『これが私の母校の制服です』と誇れるような着こなしをしてほしいです。



東京同窓会(6/11)と関西同窓会(6/18)開催

制服は、スポーツで例えるなら「ユニフォーム」です。そのユニフォームの着こなしが悪いチームは強くは見えません。現に強いチームは着こなすという姿が心にあらわれており、その姿が品格として表れます。今君たちが何気なく来ている制服は学校のシンボルなのです。大口高校生としての約束にこたえるための意思の表明です。つまり制服を着るということは責任を着るといことなのです。

本校が、これから高い進学率をさらに伸ばしていくためにも大事なことです。そのためには、1人1人の制服（ユニフォーム）の着こなし方、普段の在り方がもとめられてきます。これからも憧れられる学校であるために、君たちがこの学校で引き継いでいくものの中に「制服を着こなせる」というものがあってほしいと思います。。

性教育講演会 7/7



今年度の「性教育講演会」は、学年別を実施した。1年生は「心と体の主人公になろう」（上村直美助産師）、2年生は「高校生の性行動に伴う現状とリスク」（片野坂有香保健師）、3年生は「身近に起こりうる性犯罪について」（尾田武久警部補）である。生徒は一生懸命に聞いていました。

- ・人が生まれることだけで素晴らしいことなんだと思った。今、自分が生きていること、親や姉・弟がいることに感謝して毎日を過ごしたい。命の大切さを改めて考えることができた。（1年女子）
- ・望まない妊娠や性感染症にかからないよう、正しい行動をとろうと思う。妊娠したり、させたりしたら、悲しんだり困ったりするのは自分だけではない。間違った情報ではなく正しい情報に基づき、正しい性行動ができるようにしたい。（2年男子）
- ・改めて私たちの身近で起こりうる性犯罪の恐怖について知り、考える

ことができてよかった。男性と女性で考えていることが全く違うことはなんとなく知っていたが、怖く気持ち悪いことを平気でする人もいることも知った。（3年女子）